

症候学

ナンバリング	M4-S1-D32
--------	-----------

責任者・コーディネーター		総合診療医学講座 下沖 収 教授			
担当講座・学科（分野）		総合診療医学講座			
担当教員		下沖 収 教授、大間々 真一 准教授、高橋 智弘 講師、米田 真也 講師、山田 哲也 助教			
対象学年	4	区分・実時間数	講義	0コマ	0.0時間
期間	後期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	20コマ	40.0時間

・学習方針（講義概要等）

臨床の場での患者診察では、愁訴を聞いた段階から鑑別診断を想定し、これまでに修得した医療面接、身体診察の手法から鑑別に必要な手法を選択し、実施できる能力が必要となる。これらの能力を駆使して得られた情報を整理し、鑑別すべき疾患を絞り込む能力を身につけ、今後の診療参加型臨床実習で活用できるように、患者の愁訴から鑑別診断までの思考過程を確立する。

・教育成果（アウトカム）

患者に起きている病態を把握し、鑑別すべき疾患を想定しながら、医療面接、身体診察を行うことができる。得られた情報を統合して鑑別診断ができる。

（ディプロマ・ポリシー： 2,4,5,6 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	各症候の原因と病態生理を説明できる。
2	各症候をきたす疾患を列举し、医療面接で聞き出すべき情報を整理できる。
3	医療面接で得た情報から鑑別疾患を抽出し、鑑別に必要な身体診察手技を列举できる。
4	医療面接と身体所見の情報を統合して、鑑別診断ができる。
5	グループ内で、役割を決めて成果物（各症候に対する鑑別ポイントの一覧表）を作り上げることができる。
6	グループ内で和を保ち、良好なコミュニケーションをとることができる。
7	プレゼンテーションソフトを使って、適切に発表できる。
8	本実習での学びについて省察できる。

・講義場所

0

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
実習	9/22(月)	1	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教	イントロダクション	2,3,4,5,6
実習	9/22(月)	2	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教	症候1-37	1,2,3,4,5,6,7
実習	9/22(月)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教	症候1-37	1,2,3,4,5,6,7

[illegible]

実習	9/26(金)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教	症候1-37	1,2,3,4,5,6,8
実習	9/29(月)	1	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教	発表会	5,6,7,8
実習	9/29(月)	2	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教	発表会	5,6,7,8
実習	9/29(月)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教	発表会	5,6,7,8
実習	9/29(月)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教	発表会	5,6,7,8

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	ジェネラリストのための内科外来マニュアル 第3版	金城光代ほか	医学書院	2023年
参考書	診察ができる Vol1. 身体診察		MEDIC MEDIA	2023年
参考書	診察ができる Vol2. 鑑別診断		MEDIC MEDIA	2024年
参考書	内科診断学 第4版	福井次男、奈良信雄、松村 正巳	医学書院	2024年

・成績評価方法

【総括評価】 成果物評価5割（エクセル2割、動画2割、プレゼン1割）、レポート評価2割、ピア評価2割、授業態度1割で合算し、100点満点となるようにし、60点以上を合格点とする。なお、成果物とは、症候一覧表のなかで担当する症候の表（エクセル）を完成させたもの、発表スライド・動画の内容および発表を指す。レポートは本実習で学んだこと、本実習の省察を600-800字以内でwebClassに提出する。ピア評価、授業態度はPBLへの積極的参加、チーム内での貢献度を評価する。不合格者には別課題を課し、再評価を行う。 【形成的評価】 ピア評価が著しく低い者に対し面談を行い、フィードバックする。必要に応じて追加レポート作成が課される可能性がある。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebclassで配信する。 当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。
--

・教育資源

教科書・参考書、講義室、SGL、図書館、PC、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			